

平成24年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

研究代表者 所属	産業技術研究科	フリガナ 研究代表者氏名	コマ ヒロシ	職	教授
	情報アーキテクチャ専攻		小山 裕司		
研究分担者所 属		研究分担者氏名		職	

研究課題名	ソーシャルメディアを活用した教育支援ツールに関する研究及び開発
研究実績の概要（600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。）	<p>本学は、教育システムが独自で斬新であるがために、汎用パッケージ（ソフトウェア）による現行の情報システムでは、PBL・授業動画・ポートフォリオ等では機能不足、使い勝手の悪さ、各種の制約が指摘されていた。今回は、これらの制約を解決・緩和するため、以下に示す教育支援ツールの開発・導入を行った。また、最近ではFacebook等のソーシャルメディアが急激に普及しているため、今回はソーシャルメディアの特徴を積極的に反映した。</p> <p>(1) 従来のiPBL（MS Project及びSharePoint）はWindows・IEのみに限定され、また学生の活動を俯瞰する機能が不足していたり、週報・SA等の確認に手間がかかったり、使い勝手・機能に問題があったりするため、新規にBacklog・LMS（manaba）を導入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> - PBLプロジェクト管理（Backlog） https://aiit.backlog.jp/ - PBL週報・SA提出（manaba） https://l.aiit.ac.jp <p>(2) PBLの成績原簿を管理したり、学生がPBLの配属申請をするための情報システムを独自に独自開発を行った。アカウントの管理ではソーシャルメディアと連携している。</p> <ul style="list-style-type: none"> - PBL支援 http://04zakrello.appspot.com/ <p>(3) 従来の授業動画視聴はWindows・IEのみに制限されていたが、次第にMacOS・iOS（iPhone、iPad等）の利用者が増加してきたため、MacOSでの視聴を可能にした。また公開条件を維持したままiOSでの視聴ができる仕組みの設計・開発を行った。アカウントの管理ではソーシャルメディアと連携している。</p> <p>(4) 新LMS（manaba）にはポートフォリオ機能が存在するが、画像の扱い（デザイン分野でのポートフォリオには必須）が弱く、また一般公開することも出来無い。ソーシャルメディア・デザイン型のポートフォリオであるcreattyと協力し、新規に限定公開等の機能を実装した本学専用のサイトを開発・設置した（http://creatty.com/biz/aiit）。</p> <p>(1, 2)は既に公開・活用中であり、(3, 4)は現在実証実験中で、今後順次公開する。</p>
学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）	<ul style="list-style-type: none"> ・「AIITにおけるプロジェクト型学修（PBL）のためのBacklogシステムの導入」、中鉢欣秀・小山裕司、情報処理学会第39回EVA・第19回IOT合同研究発表会、平成24年9月 ・「チケット駆動開発を活用した小規模高速ソフトウェア開発の実証実験」、小山裕司・中鉢欣秀、日本ソフトウェア科学会、FOSE2012（第19回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ）、平成24年12月 ・「ソーシャルメディア時代のアプリケーション開発 — IT技術者育成のための基礎知識」、小山裕司、平成24年度東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業「被災地復興に貢献するソーシャルアプリ開発エンジニア育成」第二回推進協議会特別講演、平成24年12月
論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）	<ul style="list-style-type: none"> ・「小規模ソフトウェアの効率的開発を実現するPBL教材」、小山裕司・中鉢欣秀、産業技術大学院大学紀要第4号、平成24年12月

平成24年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

科学研究費補助金への応募状況、採択状況					
無し					
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況					
無し					
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]					
<ul style="list-style-type: none"> ・大田区 市民講座「情報社会に生きる — IT時代の現状・トレンドを理解する（ソーシャルメディア・クラウド・スマートデバイス）」、平成25年1月 ・中野区 市民講座「経営者のためのIT活用：最近のITの動向と活用 — IT時代の現状・トレンドを理解する（ソーシャルメディア・クラウド・スマートデバイス）」、平成25年2月 					
研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日
無し					